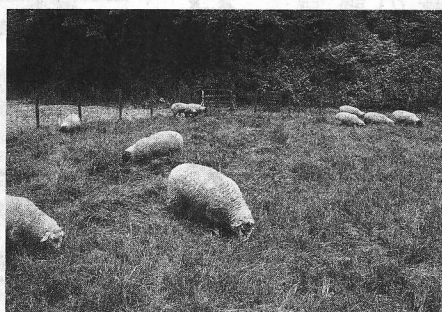


まだまだ

東北 復興日記



▶▶▶ 191



宮城県南三陸町に、ワカメを利用した飼料でヒツジを育てている牧場があります。同町歌津地区にある「さとうみファーム」です。地元の寄木漁港から揚がったミネラル豊富なワカメの芯を、ヒツジの飼料の一部に活用できるよう研究開発されました。

ワカメの根元の茎は硬くて

大正大学人間学部准教授
山内明美さん



南三陸のワカメ 飼料に活用

販売には適さないため廃棄処分する部分ですが、それを活用しようというアイデアです。南三陸の潮風が吹き上る牧場。そこで放牧されているワカメを食べたヒツジたち

タテ、ホヤやワカメの養殖が盛んになる一方、漁師にとつて悩ましい課題なのがワカメの茎、牡蠣殻、ホヤ殻といった大量の漁業廃棄物の処理です。牡蠣殻を再利用した肥料など、段階的に再利用が進んで

気候風土を生かした衣食住と温故知新の暮らしをともに創造することで、地域の未来が広がります。

ち＝写真。羊毛としての利用▽子どもたちが触れ合う体験学習の場▽寄木浜の魚介と「南三陸わかめ羊」を扱うレストラン構想―など多面的な事業が期待されています。

さとうみファームは、漁業廃棄物を利用してヒツジを飼育する新しいサイクルを生み出しました。地域の課題解決に接続させた価値創造の挑戦です。地域では養蚕も盛んだったことから、羊毛とシルク

さとうみファームでは、羊毛ワークシヨップや南三陸の海でのシーカヤック体験ツアーを家族で楽しむこともできます。詳しくはホームページ＝<http://satounifarm.org/>

三陸沿岸部の基幹産業である漁業ですが、一九七〇年代以降は、養殖や栽培漁業が中心となっています。牡蠣やホ

育する新しいサイクルを生み出しました。地域の課題解決に接続させた価値創造の挑戦です。地域では養蚕も盛んだったことから、羊毛とシルク

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。